

# 事務事業評価シート2(一般事業)

## 1 基本情報

事業番号		0145/251020/02/		事業の種類	4	
年度	22	事務事業名	のびのび健康教室事業	作成日		
予算事業名	介護予防事業		担当課名	健康介護課		
政策名	すこやかに暮らせる、心かようまちづくり		実施計画への記載	無	主要事業の指定	無
施策名	高齢者福祉		無	無		
根拠法規及び関連法規	介護保険法令、介護予防事業の円滑な実施を図るための指針、地域支援事業実施要綱					
事業の目的	誰のために(具体的に)	筋力トレーニングで介護予防を図ろうとしている高齢者				
	誰(何)を対象として	要介護認定を受けていない高齢者				
	意図(どのような状態にしたいのか)	要介護状態に陥ることなく住み慣れた地域で元気に暮らしていけるように				

## 2 事業の概要 Do

実施の概要	体力・筋力を維持するための基本的な知識と自宅で行なえるトレーニングやストレッチ体操などを指導し、介護予防を図り、住み慣れた地域で生活継続できる体力づくりを図る。 平成19年度より事業開始し、前期と後期に別け、各6回開催している。					
活動実績	項目	単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度計画
	延べ参加者	人	548	504	525	700
	実参加者	人	121	115	113	140

## 3 投入資源

会計区分		介護保険特別会計			事業費単位:円				
インプット指標		20年度決算	21年度決算	前年比	22年度決算	前年比	23年度予算	前年比	備考
人員	課長以上職員	0.083	0.086	103.6	0.087	101.2	0.083	95.4	
	主幹以下職員	0.116	0.115	99.1	0.115	100.0	0.115	100.0	
	臨時職員	0.000	0.000	-	0.000	-	0.000	-	
支出内訳	人件費	1,684,734	1,657,245	98.4	1,648,926	99.5	1,608,552	97.6	
	事業費	933,383	866,635	92.8	876,492	101.1	1,100,000	125.5	
	合計	2,618,117	2,523,880	96.4	2,525,418	100.1	2,708,552	107.3	
財源内訳	国庫支出金	233,345	216,000	92.6	219,000	101.4	275,000	125.6	
	県支出金	116,672	108,000	92.6	109,000	100.9	137,000	125.7	
	市債	0	0	-	0	-	0	-	
	その他	466,691	433,000	92.8	438,000	101.2	550,000	125.6	
	一般財源	1,801,409	1,766,880	98.1	1,759,418	99.6	1,746,552	99.3	
	合計	2,618,117	2,523,880	96.4	2,525,418	100.1	2,708,552	107.3	

## 4 評価指標

【有効性】

指標名1	延べ参加者の増減									
指標説明(式)	延べ参加者の増減									
指標単位	区分	20年度	21年度	前年比	22年度	前年比	23年度(計画)	前年比	備考	
人	目標	750	700	93.3	700	100.0	700	100.0		
	実績	548	504	92.0	525	104.2				
指標名2	体力測定結果に見る体力維持の効果									
指標説明(式)	第1回教室開始前と第6回教室後に測定する体力測定の結果、「数値が良くなった」及び「数値が変わらなかった」者の割合									
指標単位	区分	20年度	21年度	前年比	22年度	前年比	23年度(計画)	前年比	備考	
%	目標			-		-		-		
	実績	(前期)63(後期)70	(前期)58(後期)63	-	(前期)55(後期)56	-				

【効率性】

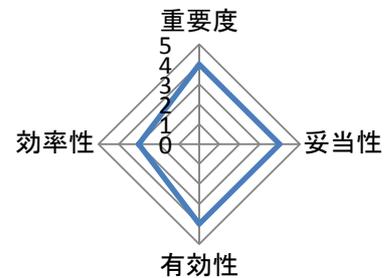
指標名1		教室参加者1人あたりの事業コスト							
指標説明(式)		事業費／実参加者数							
指標単位	区分	20年度	21年度	前年比	22年度	前年比	23年度(計画)	前年比	備考
円	実績	7,714	7,536	97.7	7,757	102.9	7,857	101.3	
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	20年度	21年度	前年比	22年度	前年比	23年度(計画)	前年比	備考
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(22年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	1次評価(係長)	2次評価(課長)
妥当性	目的の妥当性	住み慣れた地域で在宅生活を送るためには介護予防を図る必要があり、筋力強化による転倒防止は介護予防に効果的である。	3	4
	市民ニーズ	広報で参加者を募集しているが、募集開始の2～3日で定員の8割程の応募があり、人気が高い。		
有効性	成果目標(改善)達成度	教室開始時と終了時に体力測定を行っており、全体的な傾向として、下肢筋力の強化と平衡感覚の維持に効果が認められる。	4	4
	成果の向上	趣向を凝らして飽きの来ない教室づくりで、受講者にはリピーターが多い反面、より多くの高齢者の参加が課題。		
効率性	手段の最適性	月1回の教室であり、学んだことを自宅で反復継続的に実践させ、介護予防の効果を高める事が課題。	3	3
	執行体制の効率性	高年クラブ連合会に委託しているため、広報以外の方法による高齢者への事業PRができ、新規受講者を増やす点で効果的。		

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
効率性	手段の最適性	教室の開催場所が福祉会館のみとなっており、遠方の高齢者にとって、参加が困難な状況にある。



7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた23年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	成果目標(改善)達成度	体力測定の結果、参加者多くが体力維持されており、当事業の介護予防の効果は高いと考えている。教室のマンネリ化を避け筋力トレーニングによる介護予防効果を高めるとともに、より多くの高齢者の参加ができる教室づくりを検討する。
H22→H23予算反映額		0

検討の有無	-
総合指標	21